

市民公開講座 田川の医療を学ぶタベ

平成23年11月17日、田川市立病院は、前年に引き続き市民公開講座を福岡県立大学で開催し、300人を超える参加者が訪れました。

北園教授からは、脳出血および脳梗塞の発症率の推移について、疫学研究で世界的に有名な久山町研究のエビデンスを基に説明がありました。



九州大学大学院病態機能内科学(第二内科)の北園孝成教授

明があり、ほかでは聞けない貴重な話をしていただきました。脳卒中が4大死因の一つであり、田川保健医療圏で死亡率が高いことから、参加者は、終始熱心に聞き入っていました。

まず、改革の手法として戦略経営が導入され、内外の調査により、課題として①資金不足②医師不足③医療機器の老朽化④移転、交通網の不備⑤経営の不備の5項目が挙げられています。



田川市病院事業管理者齋藤貴生さん

域住民が安心できる医療の提供、「医療行政に対応した医療の提供」および「経営の健全化」を基本方針としています。

①経営危機からの離脱 シミュレーションを行ったところ、平成20年度から3カ年連続の不良債務によって、平成22年度には資金不足比率が10%を超える見通しとなったため、同年度に4億8千400万円の基準外繰り入れが導入されました。

②根幹的な基盤の再整備 ①医師確保の徹底した取り組みにより、平成22年度には10人、平成23年度には7人の新たな医師を獲得し、医師は10年ぶりの増に転じました。

①地域住民が安心できる医療の提供 高度・専門医療の充実では、がん医療については外科医と麻酔科医が1人ずつ増え、手術件数が増加しています。

②住民とともに築く地域医療 広報を充実させるため、ホームページをリニューアルし、年報も作成する予定です。

③医療行政に対応した医療の提供 急性期医療への転換を図るため、平成22年11月から7対1看護体制

平成23年8月に病院事業管理者の事務を担当する病院局を設置し、地方公営企業法の全部適用に対応した組織に改めました。

⑤収支について 平成22年度の収支状況は、一般会計からの基準外繰り入れと病院側の自助努力による収支改善により、赤字額が1億円台となり、不良債務はほぼ解消されました。

最後に、今後の課題としては、首長および議会の権限に属するものとして資金面、交通網、医療ネットワーク、医師確保を、管理者の権限に属するものとして医師の確保、医療の質の向上、経営の質の向上がそれぞれ挙げられます。

開放病床利用説明会・地域医療連携交流会

平成23年11月30日、平成23年5月に開放型病院の認定を受けたことに伴い、登録医のみなさんに対して、開放病床制度の説明会を行い、加えて市立病院と登録医のみなさんとの親睦を図ることを目的に交流会が開催されました。

まず、登録医のみなさんは当院の開放型病床設置病棟や登録医控室などを見学。その後、会場をブリテッシュヒルズに移し、開放病床に関する説明会を行った後、当院職員との交流会が行われました。

交流会では、齋藤病院事業管理者の挨拶に続き、来賓として伊藤信勝市長が激励の言葉を述べました。次いで登録医を代表して、田川医師会の向野守人会長が「田川



田川医師会の向野守人会長



田川市立病院地域医療連携交流会

平成23年12月10日、市立病院講堂において、「田川市立病院総合医学学会総会」を開催しました。総合医学学会は、全職員を対象に1年間を通し、一つのテーマについて教育・研修・研究を総合的に取り組むものであり、病院医療の向上を目的として行うものです。

第1部は院内暴力対策と医療事故対応についての発表でした。院内暴力対策について、西田卓弘外科医長が当院で実際にあった院内暴力の事例を紹介し、院内暴力の対策には、院内で情報共有し組織として取り組むことが重要との説明がありました。

第2部は、特別講演として鴻和法律事務所の太田和夫弁護士が「事例に学ぶ医療安全」についての講演を行いました。講演で、医療過誤においては、民事、刑事および行政責任が問われることを述べ、次いで過誤防止と対応について、総論と各論に分けてそれぞれ判例を詳細に解説。判例は、どの医療現場でも起こり得る内容で、具体的な防止・対応策についての話があり、今後の業務に大変参考になる講演でした。



総合医学学会準備委員会の鈴木暢彦委員長



鴻和法律事務所の太田和夫弁護士

田川の医療を守る 市立病院を創造します